

植	物	
防	疫	
講	座	

虫害編-30

アブラナ科野菜に発生するキスジノミハムシの発生生態と防除

地方独立行政法人 青森県産業技術センター しん とう じゅん いち
 野菜研究所 新 藤 潤 一

はじめに

キスジノミハムシ *Phyllotreta striolata* はコウチュウ目 (Coleoptera) のハムシ科 (Chrysomelidae) に属する甲虫で、成虫も幼虫もアブラナ科野菜を加害する。特に幼虫は根部表面を加害して商品価値を著しく低下させることから、我が国では古くからダイコンやカブ等のアブラナ科根菜類の重要害虫として知られている。発生程度に年次による変動はあるものの、その被害は毎年発生している。キスジノミハムシに適用のある防除薬剤数は増えているものの、多発条件下では十分な防除効果が得られない圃場も見られ、生産現場では防除に苦慮している。そのため、青森県では1980年代に研究課題化してダイコンにおける発生生態の解明と防除対策試験に取り組んでいる (木村, 1992)。最近でも、2010年代前半にダイコンのキスジノミハムシ被害が数年続いて多発したことから、現場からの要望を受けて研究課題化し防除対策試験に取り組んでいるが (新藤, 2014; 2015; 新藤・木村, 2019)、現在もなお被害が問題となる防除が難しい重要害虫である。本稿では、キスジノミハムシの発生生態や被害症状、防除対策等について紹介する。

I 形態と生態

1 形態

成虫は体長2 mm内外で全体が黒く上翅に各1本の黄白色の条紋がある甲虫で、後脚が非常に発達していてノミのように飛び跳ねる (図-1)。キスジノミハムシという名前はこうした特徴に由来する。卵は長径が0.3 mm内外の楕円形で乳白色。幼虫は成長すると体長4 mm内外になり、頭部が褐色で胴部は乳白色のうじむし状をしている (図-2)。蛹長は2 mm内外で、体色ははじめ乳白色でのち暗褐色に変わり、尾端に2本の小棘がある。



図-1 キスジノミハムシ成虫



図-2 キスジノミハムシ幼虫

2 生態

日本全土で発生が見られるが、年間の発生回数は地域により異なり、関東、北陸以西の平坦地ではおおよそ年3~5回、高冷地や寒冷地では年2~3回である。落葉の下や土塊の隙間等で成虫で越冬し、早春から活動を始めると、アブラナ科作物の栽培圃場に移動して作物を加害する。産卵期間が長く、卵から成虫羽化までおよそ1か

Ecology and Management of Striped Flea Beetle, *Phyllotreta striolata*. By Jun-ichi SHINDO

(キーワード: アブラナ科野菜, キスジノミハムシ, 生態, 防除)